

千波湖周辺の昆虫を調べました

～第6回千波湖環境学習会～

「千波湖周辺の昆虫を調べよう」をテーマに、今年度6回目の千波湖環境学習会を8月21日に開催しました。

今年も、新型コロナウイルス感染防止対策のため、参加者を親子で100名程度に限定しての学習会となりました。親水デッキでの開会式の後、ふれあい広場を經由して少年の森へ向かうコースで行いました。

ふれあい広場で歓声を上げながらバッタやチョウを追いかけたり、息を殺して木にとまっているセミを捕ろうとしたり、みんな頑張っていました。

次に少年の森に移動し、カブトムシやクワガタなど甲虫の仲間を狙いましたが、朝のうちにカラスたちが食べた残骸しか見つかりませんでした。

また今回の学習のテーマにしたセミの抜け殻集めでは虫かごいっぱい抜け殻を集めた子どもたちもいました。

千波湖周辺ではアブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクホウシ、ニイニイゼミの5種類のセミが生息しています。子どもたちの中には、その5種類全部の抜け殻を集めた子もいました。

セミの抜け殻集めのときには、林の場所によって出てくるセミの種類の違いが違ってくるのかどうかを調べると面白いことを説明し、抜け殻がついている場所と地面の距離を測ってみると、羽化するために長い距離を歩く種類とあまり歩かない種がいることを学びました。

蝶は、キタキチョウ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハなどが見られました。

最後は、少年の森の南側で飲み物をもらって解散しました。暑い中の学習会でしたが、楽しい思い出になったと思います。



ふれあい広場で
チョウやバッタを追いかけました



少年の森で
セミの抜け殻調べをしました

提供品のご協力をいただきました、ありがとうございます。

消毒スプレー：花王鹿島工場様